

第 3 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

(第 4 号)

1 平成4年9月18日(金曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 26名

1番 秋山 光章	2番 増田 基彦
3番 島田 保	4番 斉藤 実
5番 宮沢 治海	6番 植木 馨
7番 鈴木 順子	8番 永井 龍平
9番 脇田 安保	11番 山崎 雅己
12番 岩村 勝弘	13番 榎本 春光
14番 小宮 利夫	15番 山中金治郎
16番 鈴木 勝美	17番 鈴木 忠夫
18番 日下 君敏	19番 川名 正二
20番 生稲 陞	21番 神田 守隆
22番 福原 勳	23番 石井 昌治
25番 流山源次郎	26番 辻田 実
27番 横溝 功	28番 飯田 義男

1 欠席議員 1名

10番 庄司二三男

1 出席説明員

市長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収入役 川上 義雄	市長公室長 永野 修
総務部長 斉藤 賢司	民生部長 佐藤 澄雄
経済部長 小沼 晃	建設部長 伊東 衛
水道課長 鈴木 信一	教育委員会 会長 福原 修

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一	事務局長補佐 土橋 康彦
書記 鈴木 哲	書記 鈴木 修一
書記 松浮 郁夏	

1 議事日程（第4号）

平成4年9月18日午前10時開議

日程第1

- 議案第60号 千葉縣市町村公平委員会共同設置規約の一部を改正する規約の制定に関する協議について
- 議案第61号 館山市表彰条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第62号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第63号 館山市身体障害者ホームヘルプサービス事業に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第64号 館山市老人ホームヘルプサービス事業に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第65号 平和都市宣言について

日程第2

- 議案第66号 平成4年度館山市一般会計補正予算（第3号）
- 議案第67号 平成4年度館山市下水道事業特別会計補正予算（第2号）

開 議 午前10時02分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数26名、これより第3回市議会定例会第4日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第1、議案第60号乃至議案第65号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 議案の第62号、非常勤の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正についてお尋ねをいたします。

提案説明によりますと、本市における国際交流事業の推進を図るため、国が実施している語学指導等を行う外国青年招致事業を活用し、国際交流員を設置するとのことですが、この国際交流員とはどのようなものなのか明らかにしていただきたいと思うのであります。

お尋ねいたしますが、この国際交流員を特別職とした理由について御説明をいただきたいと思います。

次に、この国際交流とは具体的にどこの国との交流を想定したものなのか、あわせて御説明をいただきたいと思います。

さらに、市の行う国際交流という問題を考える場合、市民レベルでの日常的な国際交流はやはり隣国である韓国、朝鮮、中国などの比重が多いのではないかと思います。そこで、その実態がどうなっているのかお示しをいただきたいと思います。具体的には、外国人登録をしている外国人は館山に何人おるのか、またその国はどこの国が多いのか、その実態について御説明をいただきたいと思います。

次に、議案の第63号及び64号の身体障害者及び老人ホームヘルプ事業に関する条例の一部改正についてお尋ねをいたします。

国の要綱の改定に伴い、利用者の負担額をふやそうとする改定であります。例えば生計中心者の所得税課税年額が15万円という場合、これまでの条例では時間 650円でありましたから、週10時間来てもらっていた場合で月額に換算いたしますと、2万 6,000～7,000円になろうかと思います。この改定では時間 860円になりますから、同様のケースでは3万 4,000～5,000円ほどにもなり、かなりの値上げということになろうかと思います。

寝たきりのお年寄りを抱えた場合、その介護をどうするのかということが

問題になりますが、病気があれば病院への入院ということもできますが、それができないとすれば、特別養護老人ホームに入所するか、自宅でホームヘルパーさんに介護をお願いするということになるかと思うのであります。

そこで、施設入所した場合の生計中心者がどれだけの負担をすることになるのかということで比較をしてみますと、所得税15万円という先ほどの例で考えてみますと、月額負担は施設入所の場合に2万9,000円であります。施設入所ですと、サービスは24時間体制であります。ホームヘルパーさんに来てもらうと、週10時間程度のサービスを受けるだけで月3万4,000～5,000円の負担ということになるわけであります。それぞれの制度には費用負担についてそれぞれの理由があるとは思っておりますが、こう比較してみると、ホームヘルパーの負担額というものは施設入所の負担と比べて高い水準にあるのではないかと思うのであります。施設入所の場合との比較で、このホームヘルパーさんの負担金の水準をどのように考えておるのか、お聞かせをいただきたいと思うのであります。

次に、議案の第65号、平和都市宣言についてお尋ねをいたします。

去る6月市議会では全会一致をもって市民から寄せられた非核平和都市宣言を求める請願を採択いたしました。今回の御提案はこの趣旨を踏まえたものと理解するところであります。しかし、同時に合点のいかない点がございしますので、市長の御見解をお尋ねをいたします。

今回の宣言の案を読みますと、その宣言の中に「核兵器の廃絶を訴え」と、6月市議会で採択された非核都市宣言の請願の趣旨を体した内容と理解するのでありますが、それならばなぜ宣言の表題から非核の文字を削ったのでしょうか、その理由について御説明をいただきたいと思います。

次に、この宣言はいわば市政の基本姿勢として平和を求めていくんだということを内外に宣言するものだと思うのであります。そこで、宣言をすれば、いわばリップサービスで、それだけで終わりということはありませんし、許されません。例年被爆者同友会を中心に反核フェスティバルということで、核廃絶への市民の自主的な運動が粘り強く続けられてきていることは県内でも大変数少ないものとして市民が誇る平和運動の一つであります。市はこう

した市民の平和運動ともタイアップして有効かつ効果的な平和の事業を起こしていくべきと思うのでありますが、どのように考えておりますか、御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

議案第62号、国際交流員に関しての御質問でございますが、御質問の小さな第1点目及び第3点目は関連がございますので、あわせてお答えいたします。

外務省、文部省及び自治省によります語学指導等を行う外国青年招致事業、これに基づきまして、館山市における国際交流の進展を図るため、国際交流員の派遣を要請したものでございます。既に配置されております英語指導助手とは別に、今回新たに米国籍の女性1名を配置しようとするものでございます。その職務は地域レベルでの国際交流活動に従事するものであり、地方公務員法上非常勤の特別職となるものでございます。また、報酬額につきましては、国で示します基準に基づきまして、年間の実質収入が360万円を下らないように定めるものでございます。

次に、小さな第2点目、外国人登録の実情はどうかとの御質問でございますが、平成4年8月末現在の外国人登録人口は295人でございます。国籍別に見ますと、韓国または朝鮮151人、フィリピン82人、米国28人、中国20人、オーストラリア3人、パキスタン3人、その他8人となっております。

次に、議案第63号及び64号の施設入所の負担と比較してどうかとの御質問でございますが、ホームヘルパーの派遣につきましては、当初低所得世帯を対象としてまいりましたが、昭和57年度から必要に応じたサービスを提供する目的で所得税課税世帯への拡大を図ってきたところでございます。今回の改正は、ホームヘルパーの手当を大幅にアップしたことに伴う措置として、昭和60年度以来7年ぶりに国の基準が改定されたことに基づくものでございます。施設入所の負担との比較につきましては、制度の違いもありまして、

本人の在宅希望等いろいろな条件が加味されますので、負担額だけで比較することは困難と考えております。

次に、議案第65号、平和都市宣言についての御質問の小さな第1点目、非核を削った理由についての御質問でございますが、本年6月議会で採択されました非核平和都市宣言の趣旨を十分に体し、宣言文にありますように、核兵器の廃絶を含め、より広い意味で世界の恒久平和の実現を目指し、平和都市宣言をしようとするものでございます。

次に、小さな第2点目、平和のための事業についての御質問でございますが、今後広く市民へ周知を図るための事業を検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 議案の第62号でありますけれども、今回の国際交流員というこの設置の意味はそれとして理解をいたします。

市町村レベルといいますか、国レベルとは違って、市町村レベルで国際交流というものを進めていくというのは、やはり世界の平和というような問題との兼ね合いもありますし、非常に重要なことで、市民レベルでのつき合いといいますか、そういったものを国際的に遂げていくということは大変私は重要なことだというふうに考えるんですけれども、その点で、現実に館山市内に在住しているという点からすると、やはり韓国、朝鮮籍が全体の半分以上を占めるというようなことで、これはやはり我々市町村が行う国際交流という問題を考える場合に、やはり朝鮮、韓国については歴史的な差別の問題ですとかいろいろな問題点を含んでいるところだという点で、特別の難しい問題もある。それだけに、こうした国際交流ということで考える場合に、朝鮮や韓国、こういう国との交流というのは特別な意味で大事なんじゃないか。

今教科書の問題をめぐっても大分いろんな批判がされたりとか、日本に対する批判がアジアの国々から盛んにされているという中で、我々が市民レベルの国際交流を進めていくんだという場合に、アジアという観点は大変大事なんじゃないかなという気がするんですけれども、そこらについて、ともす

ると国際交流というと、どうしても我々の頭の中にはヨーロッパとかアメリカとか、欧米中心に流れる嫌いがあるんじゃないか。しかし、足元を見た場合には、中国だとか朝鮮、韓国、こうした隣国との非常に長い歴史的なつながりを持っているだけに、こういうところでの国際交流というのは大変重要な意味があるんじゃないかなと思うんですが、そこいらについての御見解はどうか。そういう点について市としては何かお考えがあるのか。逗子市では、韓国籍でしたか、朝鮮籍でしたか、市の職員に雇用するなんていうことも実例があったようでありますけれども、何かお考えがそこらについてありであるかお聞かせをいただきたいと思います。

それから、63号及び64号のホームヘルプ事業についてであります。ホームヘルパーの手当がアップになった、そのことは大変結構なことだし、ホームヘルパーの方の仕事についての評価が高くなったということで、当然のことだろうと思うんですが、しかしそれがストレートに利用する側の料金という形で反映してしまうというやり方はいささかどうか。

これは施設入所との比較で考えた場合に、実際かなり矛盾があるんじゃないか。制度制度についてはそれぞれの歴史があるものですから、一概にどうこう言うことはできないとしても、やはりここらの矛盾点というのは、率直に言って比較は困難であると言いますけれども、実際にそういう立場に立ちますと、これは深刻な問題なんです。ヘルパーさんに頼もうか、あるいは施設に頼もうか、その場合に生計中心者の負担がどうかというのも一つの重要なファクターになるわけです。病院に入れてしまうのが一番だろうということで、何とか——お年寄りになりますと何か病気になるものですから、その病気によって入院をしてもらってやってしまうなんていう実例もよく聞きますけれども、しかし本来ホームヘルパーさんのもとで介護をするということが生計中心者の負担が多くなるというような事態はやはり考えなきゃいけないんじゃないか、それは市独自でまた考えなきゃいけない要素を持っているんじゃないかなと思うんですが、そこらについての御見解。

比較が困難だという説明だけではちょっと納得できない。確かに困難なんです。しかし、現実を選択するその立場に置かれますと、高くなる場合が結

構あるんです。先ほど15万円ということでは申しましたが、例えば40代——私らの世代です。親が60代、70代、それが寝たきりになるといいますと、年収500万ぐらいの水準があったりしますと、これはやはり実際にどっちが高くなるかという、施設に入所してしまった方が安いケースが多くなってくるんです。ですから、これはそういう点で、実際上の問題として何か考えてもらわなきゃいけないんじゃないかなと思うんです。それについての御見解をお聞きしたいと思います。

それから、平和都市宣言の問題であります。率直に言います、今度の平和都市宣言について、非核の文字を削ったという点について私はちょっと納得できないものがあるんですけれども、憲法の平和の理念というのをうたい込んだことですか、非常に重要な点もあったという点で評価しているところなんですけれども、この平和の事業で市民にこうした宣言をしたんだということの周知を図るということをやりたいということで、ぜひそういうものをしていただきたい。各地のを見ますと、看板を立てるとかいろいろなモニュメントをつくるんですとか、そういうようなことをやって、市としての姿勢を強く市民にアピールしていこうという事業に取り組まれているようですから、そうした各地の実例なんかもよく調べてぜひやっていただきたいなと思うのであります。

しかし、同時にどういう平和の事業をしていくのかということで、もっと——これはいつときの問題じゃありませんから、今後も続く問題だろうと思うんです。それで、特に今の時点ということでは、戦後の時期、ちょうど戦争の実体験を持っている方、こういう方々がお亡くなりになってといますか、そういうときに差しかかっているわけです。あと10年したら本当にそういう点ではこの戦争の実体験というものを語り継いでいくということが大変困難になる。一日延ばしになれば一日延ばしになるほど難しいという問題があるかと思うんです。そういうことから、こうした平和の事業としても、戦争の本当の姿、実の体験というものを市民がさまざまに持っているわけですから、そうしたものを次の世代に伝えていくという事業に積極的に取り組んでいかなければ、今やらなければいけないんじゃないかなと思う

んです。

図書館に行きますと、福原教育長がシベリア抑留体験ということで生々しい話のほんのさわりだけを書いていまして、この続きはまたというようなことになっていましたけれども、しかしその続きの話というのは、大変恐縮ですけれども、教育長が元気なうちに書かなければなかなか伝えられていけないんじゃないかなと思います。

そういう意味では、そうした戦争の実の体験というものを後世に伝えていく事業というのを特にこの平和宣言を館山がするというのを一つの大きなきっかけとしてぜひやっていただきたいと思うんですが、その辺についてのお考えはないかどうか。

先日小学校の方で、学校の授業の中で子供たちが近所のお年寄りに戦争の話を聞いてくるというようなことで、子供たちが年寄りのところへ行っている話を聞いてくるというようなことをやっていて、いいことをやっているなということを非常に思いましたけれども、そういうふうに学校に任せおくだけじゃなくて、市も積極的にやってはどうかと思うんですが、こうした点はどういうふうにお考えになっているのか。

それから、平和教育を進めていくという点で、いろいろな——学校の中でも大変重要なことだろうと思います。平和問題に関する教材、あるいはビデオですとかさまざまな写真集ですとか、いろんなものが出版されたりしております。そうした平和のための各種教材をそろえて、市民にいつでもそうしたものを閲覧してもらったり見てもらったりすることができるというようなことをしていくことも大変重要な平和への貢献になるんじゃないかなと思うんです。そういう点についてお考えはないかどうか。

以上、市の御見解をお聞かせいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） まず、国際交流についての御質問でございますけれども、確かに御指摘のとおり、隣国の韓国あるいは朝鮮等につきましては、長い歴史の中で——個人的な見解ではございますけれども、同化している部分もあるわけございまして、確かに見過ごされがちなところがある

と思います。お互い韓国や朝鮮の方々もそれぞれの団体をつくってやるようでございますが、いずれにいたしましてもそういう人たちとどういう国際交流ができるか、お互いに平和についてどういう形で成果が上がるかということ踏まえながら国際交流を進めてまいりたい、このように考えております。

それから、平和都市宣言の関係でございますが、当然こういう平和都市宣言をした後は市民に広く周知徹底を図る。その場合にどういうことができるか。ただいまも戦争の実体験でございますとか、あるいはVTR、図書、そういう御提言をいただきましたけれども、息の長い活動をこれから詰めて、皆様方にまた御提案していきたい、このように考えております。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 施設入所と在宅福祉の関係でございますけれども、市の考えはどうかということでございますけれども、議員さんよく御承知のとおり、この制度といいますか、国全体の老人保健福祉、この施策が大変大きな変化をしているわけでございます。平成2年度から11年度にかけてゴールドプラン、そういう中で一つの方角を国で出しているわけでございます。それはやはり在宅福祉を中心にしながら必要に応じた施設ケアを行っていくんだということでございます。そういうことで、この施設のケアと在宅のケア、それぞれ歴史があるわけでございますけれども、これからの進む方針としては、国ではそういうような形で全国的に進んでいくべきだ。それについて具体的な方策としては、一番身近な市町村が行う市町村の保健福祉計画を平成5年度までに作成するという形になってきているわけでございます。

したがいまして、この国の方向——このヘルパーの負担等も国の基準にのっとっているわけでございますので、こういう国の方向に対して館山市としても大いに関心を持ちながら、必要に応じて県とか、また近隣の市町村とか全国市長会とか、そういう団体におきましてこういうような若干の制度の違いからくる問題点を積極的に解消するような形で国等にも働きかけていきたい、それが大切なことではないかというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 確かにこのホームヘルプ事業の料金体系の問題で、私らの世代が生計中心者で負担をするという問題で、非常にこの問題は自ら自身の問題ではないかなということを強く感じるわけですが、確かに矛盾といたしますか、国は在宅福祉を中心にすると言っているが、今の料金体系のもとではむしろ施設入所にした方が安上がりで自分の負担が少ないという、こういう体系になっているものですから — 具体的に見るといろいろありますけれども、そういうような点はやはり矛盾といたしますか、だということ、国にいろいろ意見を出していくということですから、それはそれで大変大事なことで、どんどんそういう声を市町村から上げていくということが大事だと思うんです。

今度の老人保健福祉計画でも、福祉は市町村が中心だ、国が全国的な、統一的な基準のもとに進めていくというやり方はしないんだ、市町村があくまで中心だという一応建前をとっているわけですから、そうすると料金の体系の問題に一応国の基準にのっとってと言いつつも矛盾点がある。その矛盾点を国に対して指摘しながら改善を求めていくということと同時に、市町村独自としても一定の料金体系について調整を図るということから、独自に考え直していく余地も十分あるんじゃないか。これは直ちに、どうだこうだというのはすぐに出る問題ではないかとは思いますが、市町村独自に来年度の予算の中でも検討すればできる話なんです。

そういうことなんで、市独自に、そこいらの矛盾点を踏まえて料金の体系を、市独自の体系を含めて検討する余地はあるというふうに考えているか、その辺をお聞かせいただきたい。

それから、もう一つは平和の問題でありますけれども、さまざまな事業が今後やはり — 各市でやっているところもいろいろあるようですから、毎年一定の金額を計上してさまざまに平和の事業をやっているという話も聞いております。それだけに、これまで非常に息長く核兵器廃絶の運動を続けてきた被爆者同友会、こうした団体などはどういうような平和の事業を進めているのかということで、こういうところともよく相談をして市の事業というも

のを考えていく必要があるんじゃないかなと思うんですが、その辺についてどう考えているかお聞かせいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 施設入所と在宅福祉のいわゆる矛盾ということについて市独自で調整の余地はあるかという御質問でございますが、矛盾という言葉が適当かどうかわかりませんが、問題点というふうに理解はしておりますが、市独自でこういうような問題点を調整し、変更していくということになりますと、在宅福祉全体のものにつながってくるわけでございます。ほかにもいろいろ在宅福祉の施策があるわけでございますので、そういうものにつながってまいりますので、これはやはり方向としては、いろいろこういう問題点を今回の福祉計画の中で見出して、国によりよい、問題点のないような施策をしていただくというのがいいんじゃないかと現時点では考えております。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 平和活動の関係でございますけれども、各市でいろいろ — 先ほども神田議員がおっしゃいましたように、宣言塔ですとか、そのほかパネルですとかいろいろあるわけでございます。したがって、今後当然議会が請願を受けたということを誠実に受けとめまして対応してまいりたい、このように考えております。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質疑を終わります。

次、26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 通告いたしました議案61号並びに62号について御質問を申し上げます。

最初に、議案第61号でございます。館山市表彰条例の一部を改正する条例でございます。

この条例が昭和40年に施行されまして、初めて今回手直しということになるようでございます。この間非常に長かったわけでございますけれども、そこで今回改正される点は、3条の1号が市の公益のために100万円以上の

金品を寄附した者というふうになるわけでございまして、現在30万円が100万円になるわけですから、3倍——ちょいと高いなという感じを率直なところ受けました。これはどうして3倍になるのかということも一つ私としては感じとしては受け取っております。その点は意見でございますから、答弁は必要ありません。

2番目には、この3年間ぐらいにどのぐらいの——この3条の1号の適用を受けて表彰された方は何人ぐらいおったのか、この数がわかりましたら教えていただきたい、このように考えております。

そして、この表彰条例はいろいろと問題もあったようでございますけれども、30年近く定着していることは私は高く評価したい、このように思うわけでございます。

それで、特に私がこれから申し上げたいことは、この議案につきましては昭和40年——私が初当選した直後であったわけでございますけれども、長い議員生活の中でもって非常に印象に残った条例制定であったことをまた私はここでもって市長を初め皆さんによみがえらせていただきたい、このように思うわけでございます。

というのは、この条例は御承知のように30万円を寄附した人については善行表彰が受けられると同時に——この条例は善行表彰と功労表彰があるわけです。第4条の功労表彰でいくと、市長は8年以上務めなきゃなりません。2期以上。それから市会議員は10年以上、それから議会の同意を得た助役とか収入役、こういう者については12年、さらには学校の校長になった人は20年以上、市の職員なり学校の先生は25年以上勤めないとその表彰が受けられない、こういうことになったわけです。

これになるにはかなりの論議がございました。たった30万円寄附してこれらの人と同じ表彰を受けられるということになれば随分矛盾しているんじゃないか、特に市の職員と学校の先生を25年勤めたものと30万円とイコールじゃちょいとこれはぐあい悪いんじゃないか、こういう問題で大議論がありまして、私もかなり何日間にわたって論議したことを覚えております。ここで問題になったのは今言った兼ね合いでございます。そして、当然市会議員

の10年は短いとか長いとかという意見もありましたし、いろいろあったわけ
でございますけれども、当時30万円とこれの兼ね合いがどうかということで、
非常にこれ基本的な問題であったわけでございます。この点は — この兼ね
合いですね、市長はどのように思うか。

これは11月の3日の文化の日に市長から表彰する。それで、全員で写真撮
る。私も大分前に10年やりましたものですから表彰を受けたんですけれども、
100人ぐらいで記念写真撮って、同じような写真をみんな持つておる。消防
だとか自治会の人たちが表彰を受けると、祝賀会を地元でやって、私も随分
呼ばれて、大変国の叙勲に準ずるものとして定着しておる、非常に権威があ
るということでもって、それがこの100万円の金で今イコールにしていいか
どうかということを再度考えてもらわなきゃいけない、これが2点目の質問
なんです。

それから、3点目に考えてもらいたいわけでございますけれども、この当
時市の予算は7億です。今140億ですけれども、7億です、当時の予算は。
7億のときに30万円ですから — 今140億です。20倍になっているんです、
額的には。いいですか、20倍です。予算からいくと20倍。だけれども、この
100万円というのは3倍です。かなり開きがあるから、当時今言ったような
論議でもって非常にかんかんがくがくやったのに、そのバランスが余りにも
かけ離れているんじゃないかということが第1点。最初の場合には3倍にな
ったから高いという感じしたけれども、当時の議論をこうして見ると、そう
簡単には済まされない問題じゃないかというのがある。これはどのように考
えるかということ。

4番目、当時私の記憶しておいたのに間違いないと思うんですけれども、
国の褒章があるわけです。今でもあります。これは当時50万円であったはず
です。そのときに市は30万。これの兼ね合い — 国が50万だから市も50万に
したらいいだろう、こういうような意見もありました。私もそういう意見を
述べましたけれども、しかしながら国は少しレベルが上だから30万ぐらいで
いいだろう、こういうようなことで多分落ちついたような感じがいたしてお
ります。

そこで質問したいのは、今国の褒章は50万円から10倍になりまして 500万円でございます。国は 500万円です。館山が 100万ということになりますと、当時50万対30万という割合が — 国が 500万に上がってきたときの割合 — この条例を施行したときにいろいろ論議したその建前というものはかなり崩れてきている、こう思うわけでございます。ここら辺にこの 100万という根拠 — 30万が 100万だから高いなというふうに思ったんですけれども、国は個人のものについては 500万になっているんです。何度か改正があったそうでございます。

館山市は30万で定着して、問題がなかったようですからよかったんですけれども、今改めてその問題振り返ってみますと、当時の印象とともにこうした問題があって、これは表彰という非常に権威のある一生にとって一回の晴れ舞台であるわけです、消防だとかいろんな町内会だとか民生委員なんかの人にしてみれば。それがそういうようなバランスの中でどうかということは当時も問題になった。しかし、今もやはりその精神というのは生きておるだろうと思う。

国に準じた 500万と 100万 — 国に準ずれば、今 300万という数字が出てこなきゃいけないんですけれども、300万というところも10倍になりましてどうかなと思うんですけれども、ここら辺はやはり十分理解した上で施行していかないと、この運用というものは非常に誤るものであろうし、ただ単に30万が 100万になって、3倍になって、ちょっと高いんじゃないかという感じだけでは済まされない基本的な問題、そういったバランスの問題等をどのように市長はお考えになっておるのか、その点についてひとつ御答弁をいただきたいと思います。

次に、62号でございます。これは先ほど神田議員が質問されましたので、重複は省きます。

この報酬については、同じ項目に英語指導助手というのがあるわけです。これは30万円です。国際交流員の方は35万円ということになっているわけです。

そして、この英語指導助手については、もう大学出て英語教育の資格を持

った — 非常に厳選な試験をパスしてきているということで、私もアメリカの友人に照会を受けまして1人日本へ派遣したんですけれども、大変難しい試験が向こうでもありますし、日本の領事館でも行われたということでもって、非常に資格があるわけです。国際交流員も先ほどのあれだと余り変わらないようでございますけれども、むしろそういった教員資格云々はないようでございますけれども、こちらの方が35万円ということになってくると — こちらの場合にはいろいろの選考の過程でもって、英語指導教員とは資格の面でかなり幅があるような感じがするわけでございますけれども、同じような人が — この国際交流員も語学教育を中心にいろいろな指導に当たるということでもって、全く英語指導教員と同じ任を持っておるわけでございます。

その同じ人が館山に来て、同じに在住して、片一方は30万、片一方は35万ということになりますと、外国人というのは日本人より物をはっきり言います。同じ仕事についていてえらいばかみたい、こういうことになってしまうと、せっかくのものが私はトラブルのもとになると思う。これは一緒にしなきゃならないというふうに感じておりまして、そうしないと運営上 — 外人のことですから、特に外国から1年ということでもって来て、非常にびりびりした生活の中でございますから、そういう問題どうなのか。

実際に英語指導助手については30万円、これは全国大体同じようございまして、上がっているところもないし、下がっているところもないということで、ぴったり合っているということでございますから、国際交流員の方もそうした面になっていきますと、5万円の差というものが条例的にどういうことになるのか、そうした点についてはどのような配慮がなされるのか、そこら辺についてひとつ御説明いただきたいと思います。

以上、終わります。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

議案第61号、表彰条例の一部を改正する条例の制定についての御質問でこ

ございますが、過去3カ年間の寄附による善行表彰件数は平成元年度4件、平成2年度8件、平成3年度12件でございます。なお、3年間の合計24件のうち100万円未満は9件となっております。

次に、表彰条例の寄附金額の改定についてでございますが、条例の施行以来26年の間に全国消費者物価指数が3.9倍、千葉県消費者物価指数が3.8倍になっていること及び県内各市の状況を参考にして改定しようとするものでございまして、辻田議員の昭和40年ごろの制定の事情及びその後の変化についての貴重な意見、これからの参考にさせていただきます。

次に、議案第62号、国際交流員の報酬についての御質問でございますが、語学指導等を行う外国青年招致事業により配置されます外国青年については、年間の実質収入が国で示す基準によりまして360万円を下らないということと定められております。また、日本国とアメリカ合衆国との間の租税条約によりまして、語学教育を行う英語指導助手については租税免除の適用が受けられますが、国際交流員は職務の内容から租税免除の適用はなく、所得税、住民税を負担することになるためでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） この3年間の数字はわかりましたですけれども、施行規則というのがございまして、その中では特に――論議した結果、30万円出せば何でもいいじゃないかということでもって論議されて、その妥協案として、運営の中でもって十分やっていくということでもって、当時の市長さん苦勞されまして、この30万円を寄附しても、特に衆人の模範となり、周囲の模範となり、功績が顕著であるということが加味されなければ30万円出しても表彰しないんだ、こういう答弁がありまして、これが施行規則の中に入っているものですから、したがってこの辺はイコール的にはいかない、額面的にはいかない、このように運用してきたと思うんですけれども、30万円以上寄附して表彰を受けられなかった人が――この適用云々じゃないと思うんですけれども、あったかどうか、その点についてひとつ伺います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 現在まで一件もございません。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） これは表彰でもって余りどうこう言うわけじゃありませんけれども、私はなかなか難しいと思うんですけれども、余り施行規則をやると、衆人が認める模範じゃない、顕著じゃないというようなことで、ただ100万円寄附しても表彰を受けられないということになると、かなりそういう人の名誉の問題になりますから、この適用は非常に難しいと思います。しかしながら、犯罪等を起こしたり、かなり悪い人が金さえやれば市の方の表彰受けられる、そういう不心得な人もないとも限らないんで、そういうことは今までなかったようでございますから幸いでございますけれども、この運用に当たっては十分配慮していただきたい。

それからもう一つは、私は館山市のこの表彰に対する権威、これはやはり十分確保しておいた方がいい。言い方は失礼になるかわかりませんが、隣の市は50万円出せば表彰もらえるけれども、館山はそうはどっこいいかないんだ。なかなかやっぱり値打ちが違うんだ、同じ表彰をもらっても、こういうことを維持するため、それは職員が25年、市会議員が10年勤めたということ——同じまちでも、向こうの10年と——館山の市会議員の質と内容が違うんだからとやっぱり誇りを持たなきゃいけないわけでございます。そういう関係からいって、すぐ金に換算されるのはこれだけしかないんです、内容は。金というものは一つの価値を持っておりますから、非常に面倒なものでございまして、私は国の500万に対応したものをやっていくのは本来当然じゃなかったかというふうに考えるわけです。

私自身も反省しています。26年間ほうっておいて、途中私道草食いましたから、その間改正されているのかと思ひまして、今度見たらこういうふうになったものですからあらと思って、そして早速安房支庁のを調べたら500万と聞いていますから、これは随分安くなったな、館山の表彰条例の基準は、こういう感じも受けないわけでもないわけでございますから、その点については私はむしろ国に準じて300万——当初の精神に近いところまで手直しするなり、施行規則の中で運営上処理するなり、そういうお考えがあるのか

どうか、その点についてお伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 御指摘のとおり、国の場合には紺綬褒章が 500万、それと県におきましては大体その紺綬褒章の 3分の1程度を目安にしております。現在 150万でございます。いろいろな考え方がございましょうけれども、昭和40年当時、執行部の提案に対しまして、結果として議会が議決した、そういうものを重く受けとめまして、ちょうど 100万円が現時点では適当ではなかろうか、このように考えております。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質疑を終わります。

次、7番議員鈴木順子君。御登壇願います。

（7番議員鈴木順子君登壇）

◎7番（鈴木順子君） 私の質疑は先ほどの神田議員と重複をいたします。同じような内容になるかと存じますが、私なりの思いもございまして、お伺いをいたします。

議案の第65号でございます。平和都市宣言についてでございますが、さきの6月議会において被爆者同友会の方々から提出されました非核平和都市宣言の請願が当館山市議会におきまして採択をされたことは御承知のとおりでございます。

今議会で当局から提案をされました平和都市宣言の内容を拝見いたしますと、日ごろの庄司市長のお考えがあらわれた立派な内容であるというふうに思います。しかしながら、この内容でありますと、非核平和都市宣言や核兵器廃絶平和都市宣言としてもよかったのではないかという思いがあるのですが、どのような経緯で、お考えの上で平和都市宣言となったのかお尋ねをいたします。

以上、御答弁によりまして再質問をいたします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木議員の御質問にお答えいたします。

議案第65号平和都市宣言についての御質問でございますが、核兵器の廃絶

に対します思いは市民の皆さんの思いと全く同様でございます。平和都市宣言とした理由につきましては、ただいま神田議員にお答えしたとおりでございまして、より広い意味での世界平和を目指したものでございます。御了解賜りたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） この平和都市宣言なんですけれども、以前にも御案内のとおり、さまざまな形ではありますが、いわゆる平和都市宣言をしていない市はもうわずかしかなないということで私も議会で質問をいたしたことがあります。ここにきてこの館山市が平和宣言を提案しているわけなんですけれども、その宣言に対する姿勢は私は評価をしておきたいというふうに思っています。しかしながら、この内容を見ますと、どうして平和都市宣言になったのか、いま一つすっきりしないという思いであります。

県内の各自治体宣言を見ますと、成田市ですか、世界連邦平和都市宣言、これが1958年に――県内では初めての平和都市宣言だそうです。それから大分間を置いてから、1982年に習志野が非核平和都市宣言をし始めたのが皮切りになって、1980年代にはさまざまな自治体でこの宣言がされているというふうに聞いております。

今回のこの平和宣言の提案なんですけれども、このような県内の各市町村の自治体宣言を参考にした上での内容となったのでしょうか、どうでしょうか、お伺いをいたします。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 館山市は27番目でございますので、26市がどういう状況であったかということは参考にはいたしました。この平和都市宣言は館山市独自の考え方でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 先ほど神田議員さんの方から私の言いたことを大分お聞きされたようなので、簡潔にいま一度お尋ねをしたいんですけれども、どう見ても、この内容を見ますと、まさに6月議会に請願で出された方々の思いが本当に反映されていない文面になっているわけです。議会で請願が採

択されたということは議会の意思であるわけですから、そういうことを踏まえた上で非核平和都市宣言とするお考えはなかったのかどうか再度お尋ねをして、また平和都市宣言とした当局の真意をお聞かせを願いたいと思います。

私は基本的には、御存じのとおり、6月議会で先ほど来申しておりますように請願が採択をされたことを踏まえて、非核平和都市宣言とした方がこの内容ではすっきりするのではないかなというような思いがあるんですけども、そういうふうに思っておりますが、またこの宣言が館山市で平和都市宣言ということでこの議会で採択された場合は直ちに――先ほど来いろいろな市民に周知するためのことをやっていくということをお話しになっていきますけれども、例えば市民の目の行き届く駅前であるとか庁舎の中であるとか、いわゆる市民の目の行き届く場所に早急に宣言の塔というんでしょうか、を立てるようなお考えがあるのかどうか、あわせて以上2点についてお尋ねをします。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 御承知のように、今世界の中では核ということではなくて、核を抜きたいいわゆる武力の紛争等も多くあるわけでございます。したがって、広い意味で平和都市宣言としたものでございます。

それから、平和の事業につきましては、先ほど神田議員にもお答えいたしましたけれども、今後詰めて皆様に御提案していきたい、このように考えております。

◎議長（福原 勤君） 以上で7番議員鈴木順子君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。

日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 通告しないで申しわけございません。

その今話題になっております議案第65号の平和都市宣言について少しお聞きしたいんですが、これは当初は非核ということが入っていたんです。それを今回館山市の方は平和都市宣言ということで非核を取った。にもかかわらず、この内容を見ると「核兵器の廃絶を訴え」という文章が入っている。こ

れはただいまの答弁を聞いていますと、広い意味で平和都市宣言をしたにもかかわらず、なおここに突如として「核兵器の廃絶を訴え」という文言が入っていることはちょっとおかしいんじゃないか、矛盾しているんじゃないかと思います。むしろこの核兵器廃絶というのは取るべきだというふうに思うんですが、この文言を入れた理由をお聞かせ願いたい。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 前段に「武力による紛争を無くすとともに、核兵器の廃絶を訴え」ということでもって、議会の請願の議決を受け、誠実に対応したものでございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） むしろ広く世界平和を訴えるならば、ここであえて核兵器ということは要らないと思うんです。その前段で「日本国憲法の掲げる崇高な理想」というふうな理想を掲げているわけですから、そして「世界の人々と共に手を携えて」でいいわけです。あえて核兵器というような言葉は入れるべきじゃない、むしろこの文章の統一から見れば。先ほどから言っているように、非核の平和というところ——非核を省いて広く平和都市宣言という宣言にしたわけですから、これは核兵器の廃絶というこの文言は取るべきだと思うんですが、取る意思はございませんか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 貴重な御意見でございますが、考え方は今まで出ましたとおり、広く恒久の平和を願い、そして平和のうちに生存する。これは館山市民を初めとしまして日本国民の生き方でございますし、さらに人類共通の願いでございます。そのために大きく平和都市宣言とうたったんでございますが、ただ日本は世界で初めての被爆経験者でございます。そういう意味から、内容的にはやはり打ち込んでおくことが価値あるかなということでございますので、取る意思はございません。御了解賜りたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 大体そもそもこの提案者が被爆者ということであつたと思うんです。しかしながら、そういうことではないんだよ、もっと広

く館山市議会としては受けとめるんだということで、当議会としてはこれを採択したつもりでございます。私もそういうつもりでありました。単に兵器とすれば、核兵器だけが悪いんじゃなくて、大砲も悪い、飛行機も悪いということになる。ならば、軍備そのものが悪いんだということで言うならばわかるんだけど、そこでただその核だけを取り上げて悪い。じゃあほかの兵器はいいのかというようなことにもなるものですからあえて御質問したわけでございますが、この辺のことはよく慎重にしていきたい、そういうふうに存ずるわけでございます。

終わります。

◎議長（福原 勤君） 他にございませんか。―― 質疑を終結いたします。

委員会付託

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となっております議案第60号乃至議案第65号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第2、議案第66号及び議案第67号の各議案を一括して議題といたします。

質疑 応 答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 議案の第66号、館山市一般会計補正予算（第3号）についてお尋ねをいたします。私の質問は議案書に沿って行ってまいります。

11ページをお開きください。橋梁整備工事請負費として700万円が計上されておりますが、説明書によりますと、相生橋かけかえ工事の工法の変更に

よるものとのことではありますが、具体的にどのようなことなのか御説明をいただきたいと思うのであります。

次に、相生橋の工事は2カ年要する工事ということであったかと思うのでありますが、この橋の交通量はかなりのものがございます。特に、127号バイパスが貫通してから、安布里踏切を經由して県道白浜線方面に来る自動車交通がかなりふえているものと思います。この工事期間中、この交通対策についてはどのように御検討がされているのかお聞かせをいただきたいと思います。

次に、12ページであります。教育費、社会教育費ということで、休業土曜日指導員謝礼ということで11万 3,000円が計上されておりますが、これについてお尋ねをしたいと思います。これは学校週休2日制の実施に伴い、土曜日の子供たちへの指導をお願いした方々に指導員としてその活動に対して謝礼を払おうとするものと思うのであります。

そこでお尋ねしますが、この指導員の活動の内容についてどのようなことを想定されているのか御説明いただきたいと思います。

また次に、既に9月12日、第1回の土曜休業が始まり、この議会でもさまざまの論議がされてまいりましたが、この実施しての子供たちの意見も集計しているようでございますので、それらの結果も踏まえて教育長としてはこの12日の結果をどのように評価しているか、あるいは御感想などお聞かせいただきたいと思うのであります。

次に、3月12日付で出された県教育長、学校教育部長からの通知によりますと、例えば小学校5、6年生では土曜で休業になった時間をほかの曜日に割り振ることが指導されております。土曜を休みにしても、その分はほかの曜日の時間数をふやして対応しろというわけであります。これでは長時間授業がふえることになって、子供の負担はむしろふえることになりかねません。これは3月の23日付で出された文部省の考えとも矛盾するものであります。文部省初等中等教育局長、生涯学習局長から都道府県教育委員会教育長にあてた通知では、授業時間の運用について、小学校及び中学校については、子供の学習負担などを考慮し、各教科等外の活動や学校行事を精選するなどに

より対応することとしております。つまり、授業時間を振りかえるというのではなく、学校行事などを見直し、それを少なくして対応するべきだというものであります。市教育委員会としては、県と文部省とが違ったことを言っていると思うのでありますが、市内小中学校ではこの問題についての対応はどのようになっておるのか御説明をいただきたいと思うのであります。土曜休業の授業時間を他の曜日に上乘せするということはないというふうに理解をしてよろしいのでしょうか、御説明いただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

議案第66号に関しましての橋梁整備工事請負費についてでございます。大きな第1、相生橋かけかえ工事の変更理由と工事中の交通対策についての御質問でございますが、変更理由につきましては、橋梁取り付け護岸の構造を当初はコンクリートブロック積み工で計画しておりましたが、河川管理者であります県と協議の結果、流水断面をより多く確保するために、コンクリート擁壁工に変更する必要等が生じたものでございます。

次に、工事中の交通対策につきましては、自動車等は全面通行どめといたしますが、歩行者、自転車につきましては、幅員2メートルの仮橋を設置し、常時通行できるよう計画しております。

大きな第2の学校週休2日制実施に関係します諸問題につきましては教育長よりお答え申し上げます。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） お答えをいたします。

指導員の活動内容は何かというような御質問でございますけれども、この指導員の仕事は施設の開閉など施設の管理をすること、出席簿に基づき参加児童の出席を確認すること、参加児童の遊びやスポーツ活動を見守り、事故防止と健康管理に留意すること、緊急事態が発生した場合、指導員は学校及

び保護者と連絡をとり、適切に処理すること等でございます。

それから、次の学校週休2日制の実施の結果についてはどうかというような御質問でございますが、各学校からの報告によりますと、友達の家や近所で友達と遊んだ、買い物、催し物の見学など家族と外出をした、遊び、スポーツ、家事手伝いなど家族と過ごした者が多く、その他多様な過ごし方をしていたようでございます。全体的にゆっくり過ごせた、家族との触れ合いが増加したという傾向が見られ、学校週5日制が順調なスタートをしたのではないかと考えております。

次に、県教育長の通知と文部省の通知は違うではないか、内容が違うではないかというような御指摘でございますけれども、教育課程の編成の文部省の通知と県教育庁の通知は、表現は異なるものの、趣旨は同様のものと理解をいたしております。館山市教育委員会といたしましては、これらの通知を参考にし、各学校の実態に合わせ、授業時数の確保と過重負担の軽減について工夫し、教育課程の編成をするよう指導いたしております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 教育長さんにお尋ねしますけれども、今表現は異なるということですが、表現だけじゃなくて、内容が私らは違うというふうに理解をしているんで、そのことについて——一応私らはむしろ文部省の内容の方が県教育長の内容よりもはっきりとしているんじゃないか——土曜日で休みになった日をほかの——月1回ですから、3時間授業時間が減りますと、その分を例えば火曜日の日に7時間目をつくって確保しなさいよというのが県教委の指導文書の中にあるわけです。それについてはそういうことはないというふうに、市内の小学校でそういうことはないというふうに理解をしていいのかどうかということです。

それと、学校のこの2日制問題については今まで一般質問の中でも大分議論されてきた問題なものですから、一応そこにとどめまして、違った面からお尋ねをしたいと思うんであります。

私は月1日とはいえ、毎月第2土曜日が休みになるということは、館山市

の観光あるいはリゾート、こういった地域振興ということからいえば画期的なことだ。観光やリゾートという点で——ビジネスチャンスという言葉がありますけれども、銀行や公務員の週休2日制の実施にもすぐるとも劣らない意味がある。それはこの土曜休業になる数が膨大だということです。幼稚園、小学校、中学校、高校と日本全国で1,600万人もの膨大な数が休業になる。これは大変なビジネスチャンスだというふうな感じがするわけです。

月に1度だといっても、もともと8月は夏休みですから、年間ですと、祝日と重なったりすることもあるので、10日ないし11日休みがふえるということとありますけれども、現在祝日で休みなのはやっぱり11日か12日です、年間。ですから、祝日が倍になった。休みの量ということからいえば、これ自体大変なボリュームだと、量だと思えますし、しかも必ず連休になる。幼稚園、小学校、中学校、高校、この世代の親というのは大体30代、40代、これがその親だと思うわけとありますけれども、1泊ないし2泊というような小旅行といいますか、こういう機会というのはこれを機会に飛躍的に高まっていくことになるというのは——私そうなると思うんです。これまで家族旅行といいますと、夏休み、春休み、あるいは冬休みですか、こういう時期にということに限られていたわけですが、これからは月に1度はそうした機会がめぐってくるということで、それほど1回1回にお金はかけないけれども、繰り返し小旅行をしていく、こういうような形態といいますか、需要といいますか、こういうものが今後は大きく出てくるんじゃないか。

この館山にとっては、4月だとか6月だとか、あるいは9月、10月、11月、12月と、従来館山市の観光とかりゾートという面から見ますと、いわば枯れた時期と言われていたそういう時期にも非常に見方を変えれば需要が出てくるという点で、これまで四季型観光なんていうことで、年がら年じゅうやれるようなということを議論がされてきたいきさつもあると思うんですけれども、状況は大いに変わる。そういう点では、秋の時期ですとか、そういう時期にも適切な行事ですとかイベントですとか、こういったものを設定するとか、いろんな工夫をしていけば非常に大きなチャンスが生まれてくる。こういう点で、非常に大事な——地域の振興という面から見ると、大変大きな意

味のあることじゃないか。そういう点でどういうふう to 受けとめられておるのか。

今まで学校の2日制の問題というのを教育の問題という形で論議されてきたんですけれども、地域振興という面からも非常に大きなインパクトのあることじゃないか。これをどう受けとめていくのかということによって、館山市が今後リゾートとしていわば試されるといいますか、その試金石にある意味ではなるということでもないかなと思うんです。いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） お答えをいたします。

神田議員さん御指摘のとおり、家族旅行の機会はふえてくるものと、ふえていくであろうというふうに私どもも考えております。現実 to 去る9月の12日、第1回目の休みが実施されたわけでございますが、限られた数のデータだけでございますので、これで全体を推しはかるというのはちょっと危険かと思いますが、御参考までに申し上げますと、民宿と、それから公営の施設につきまして小学生を含んだ家族連れが顕著にふえているというデータがございます。データの数としては少ないんですがございますけれども、そういう傾向を裏づけているんじゃないか、このように受けとめております。

これからそういうような形で旅行の機会がふえるということになりますと、今までのいわゆる観光客に対します受け入れ態勢というようなものもおのずと変わっていかねばならないのではないかと思います。家族が楽しめる費用負担、余り経費のかからないで楽しめるような施設の整備とか、また子供向けのイベントの工夫とか、そういうふうなものが将来的には必要になってくる、このように考えております。一例を申し上げますと、現在アウトドア志向でございますので、ハイキングコース等、当地域の特色であります自然を生かしたような施設とか、そういうふうなものが考えられるんじゃないかと思ひます。

ただいま神田議員の方からオフシーズン対策というふうなお話もございましたんですが、確かに四季型観光地というのは従来言われておりましたんですが、現在は春と夏の2季型であろうというふうに私ども考えております。

そういう意味で、オフシーズン対策につきましても、新しい視点で対策を考えていく一つの機会ではないだろうかというふうに考えます。今後関係業界とも観光客のニーズに応えられるような受け入れ態勢、それらにつきまして協議を進めてまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 文部省と県教育委員会からの通知、通達は私たちとしてはそれほど内容について大きな違いはない、このように考えておりまして、両方とも柱は学校運営上の問題と、それから教育課程の問題、こうなっておりまして、月に3時間授業は減りますけれども、その分は学校行事、教科外等の活動その他を精選しまして、そして学力が落ちないように考えなさい、こういうような通知になっておりまして、したがって平成4年度の9月からこうなりますよということはわかっておりましたので、小学校の方は学校の裁量時間を持ってまいりまして、土曜日の3時間に持ってきておりますので、それほどこの授業時数自体は変わりないと思っておりますし、中学校の方にもやはり裁量時間というのがございまして、その時間を——休業土曜日の3時間をそれに——1週の裁量時間、3週の裁量時間、4週の裁量時間に割り当てておりますから、ある日が7時間の授業を行うというようなことは、そういうことはあり得ませんので御了承いただきたい、こう思っています。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 教育長さんのお話聞きまして、私も小学生、中学生の子供を抱えていますけれども、喜ぶんじゃないかなと思います。

今の土曜休業の問題で、ビジネスチャンスというようなお話で、市としてもそういう点を積極的に受けとめてやっていきたいというようなことでありましたんで、大変期待したいと思うんですけれども、これまでリゾート、リゾートということが言われましたけれども、リゾートというのは基本的には国民の休暇権といいますか、休暇をする権利が確立しないことにはなかなか

進展しない、国民が休みがとれるという状況が普及しないと。そういう点で、それが一番大きなネックだというふうに我々は主張してまいりましたけれども、学校週休2日制というのは、極めて不十分だとはいいいながらも、そういう意味では極めて大きな初めの第一歩といいますか、そういう意味が1,600万人の規模で始まるわけですから、大変大きなことだというふうに理解をしていかなきゃならないんじゃないかと思うわけです。

館山が――秋のファミリーリゾートという点で今お話がありましたけれども、ともすると今まで見落とされていたような秋ですと、ハイキングというようなお話がありましたけれども、大変館山は私ハイキングにいいところだとかねがね思っていたんですけれども、どうしても観光といいますと夏あるいは冬場ということから、この秋の時期とか、あるいは早春も割といいんですけれども、なかなか注目されてこなかった。しかし、条件が変わったから、ハイキングコースの整備とかいうものは十分検討に値するし、そういう意味では大きな内容を持っているんじゃないか。せんだってオリエンテーリングのコースを――館山の城山のコース歩きましたけれども、大変な難コースで、私もとうとう途中で投げ出してきましたけれども、もう少し楽なコースがないと――あれファミリーコースと言えるのかなというようなことで、実際に歩いてみますとかなりなんです。そういうようなコースを幾つもつくるということもぜひ御検討していただきたいということをお願いをいたしまして、終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となっております議案第66号及び議案第67号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

議長の報告

◎議長（福原 勤君） なお、この際申し上げます。

9月9日議会運営委員会開催までに受理した陳情書は、お手元に配付の陳情送付表のとおり所管の常任委員会に送付いたしましたので、報告いたします。

延 会 午前11時27分

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明19日及び20日は議案調査のため休会、次会は9月21日午前10時開会とし、その議事は平成3年度各会計決算の審議といたします。

◎本日の会議に付した事件

1 議案第60号乃至議案第67号